

# 本願寺新報

hongwanji journal

## 4月2日(木曜日)

毎月1日・10日・20日発行

発行所 本願寺新報社

京都市下京区堀川通花屋町下ル 浄土真宗本願寺派 (西本願寺) 本願寺出版社内  
〒600-8501  
電話 075(371)4171(代) / FAX 075(341)7753

### 号外

# 4月2日、ご発布

きょう4月2日午後2時から本山・御影堂ごえいどうで厳修された本願寺御影堂平成大修復完成奉告法要に引き続き、「ご消息発布式」が行われ、同法要に際してのご消息をご門主が親読された。本願寺御影堂平成大修復は平成11年1月16日に起工式が行われ、同年6月17日にご真影まかげ(親鸞聖人像)が阿弥陀堂へご動座され、10年の歳月をかけて大修復工事が進められてきた。1日には、ご真影が阿弥陀堂(総御堂)から御影堂へご動座され、午後2時30分から御動座法要が営まれた。

5月22日から26日まで、毎日午前10時30分から本願寺御影堂平成大修復完成慶讃法要が厳修される。

※「ご消息」とは手紙のことです。宗門では、親鸞聖人や歴代宗主およびご門主が僧侶、寺族、門信徒へ宛てた書状のこと。

## 本願寺 御影堂 平成大修復完成奉告法要に際しての消息

本日、ここに本願寺御影堂平成大修復完成奉告法要を皆様とご一緒にお勤めすることができましたこと、まことに有り難く、喜ばしく思います。

宗祖親鸞聖人のご真影様を安置する本願寺御影堂は、寛永十三(一六三六)年に創建され、今日まで三百七十余年にわたって護持されてきました。その間、創建から百七十年ほど後に大修復がなされましたが、その後二百年近くとなり、損傷等が進んだため、新たに大規模な修復が必要となりました。

このたびの大修復は、京都府の監理の下、文化財保存修理の専門家による優れた伝統の技に、先進の技法も取り入れられ、さまざまな困難を克服して、その完了をみることができました。ご尽力いただいた皆様に深甚の謝意を表しますとともに、創建以来、御影堂を護持してこられました先人のご苦勞をしのびたいと思います。

平成十一年一月十六日の起工式以来、十年にわたるご修復事業が仏祖ご照覧のもと、国内はもとより、世界各地の僧侶や門信徒をはじめ、有縁の方々の報謝のご懇念に支えられ、また、世界文化遺産に登録された重要文化財として、公的資金の補助を受けて進められてきましたことは、まことに尊く有り難いことです。

ご真影様を安置する御影堂は、ご開山聖人として親鸞聖人のみ跡を慕い、浄土真宗のみ教えに生きる私たちのこころのふるさとであり、宗門の要です。

親鸞聖人は、迷いと苦悩の中で生きる私たちに、本願力回向の信心をめぐまれて、お念仏申す往生仏の道をお示しく下さいました。それは、人間中心、自己中心的な欲望にとらわれている私が、阿弥陀如来の智慧と慈悲に照らされ包まれ、御同朋御同行と手を携えて歩む道です。

平成二十三年・二十四年には、ご修復を終えた御影堂において、親鸞聖人七百五十回大遠忌法要をお勤めいたします。ご修復の完成を機縁として、聖人のみ教えが、御影堂とともに未永く受け継がれますよう努める決意を新たにいたし、ともに大遠忌のご法要をお迎えいたしましょう。

平成二十一年  
二〇〇九年

四月二日

龍谷門主 釈 即 如